

～研修前日～

12名のチーム2014メンバーは、入国審査で多少のアクシデントを乗り越え、無事にハワイに到着しました。

本日は朝からダイヤモンドヘッドへ登山し、時差ボケに立ち向かったようです。

夕方5時前に全員集合し、宮本隊長と合流後に恒例の Ocean house restaurant にて決起集会。



食事後はビーチにて、ダイヤモンドヘッドをバックに(夜なのでわかりませんが・・・)記念撮影。

ホテルに戻り、1人ずつ明日からの決意を表明していただきました。



隊長も5年目ともなると要領がつかめ、明日からのアグレッシブな長崎レジデントを予感しております。

～研修1日目～

8時半、誰も遅刻する事なく、全員そろってハワイ大学へ出発しました。



Ben 先生のあいさつの後、今後5日間使用するシミュレーターの説明を受けました。



いきなりの英語漬けでしたが、ひるむ事なく積極的に質問していました。

その後は、今年の7月からハワイ大学に戻られ、現在は Queen's Medical Center の ICU に勤務されている瀧先生（長崎大学に2度ほど呼びしています）からアメリカの医療制度並びに研修制度についての話がありました。

短い昼休み（それでも昼食のメニュー選びとオーダーに四苦八苦）の後は中心静脈確保の実習を行いました。

3つの部位で、それぞれ手技を行いました、日頃の臨床で慣れているのか、皆上手でした。

余裕もあってか、全員が積極的に質問や discussion に参加していました。

あっという間に時間が過ぎ、4時頃に終了しました。

疲れる様子もありません！

～研修2日目～

昨晩は全員で Cheesecake factory に行き、晩ご飯を食べたのですが、あまりのボリュームに皆圧倒!!!

最後のチーズケーキまではなんとかたどり着きましたが、Godiva チーズケーキなどを食べた時は窒息寸前でした。

全員が熟睡して体調万全で2日目に臨みました。



午前には救急外来でのシュミレーションを Bhat 先生と Taki 先生が担当してくださいました。



心筋梗塞、敗血症

緊張性気胸



4人1チームで行いましたが、他のチームが行っている時にはいろいろと判断できるのに、いざ実践となると、頭も体も思ったように動かない事を実感しました。

多少落ち込んだ感じがあったのですが、昼食後には復活していました。

午後は、ハワイ大学の老年科(日本にはあまりない科です)の fellow である林先生の講義を受け、高齢者の polypharmacy (薬の内服し過ぎによる弊害)について学びました。

その後は今日のハイライトであるトリアージを Ben 先生の短いレクチャーの後にシミュレータを用いて行いました。

災害時の診療への切り替えに苦労しながら、症例ごとに積極的な密度の濃い討論ができました。

お約束のサプライズも準備されており、全員でダッシュしながら現場に駆けつけました。



盛りだくさんの1日で、さすがで疲労困憊といった感じだったので、今日は早めのミーティングにして、リフレッシュする時間を長く取る事にしました。

チーム 2014 頑張っています。

～研修3日目～

3 日目は「ハワイ大学の長谷先生？」と研修医に言わしめた凄腕の Oliver 先生の救急外来症例からスタート。

「医学部4年生に対するシナリオです」と言われ、プライドをくすぐられ燃え上がりましたが、その気持ちとは裏腹にはほとんどが不完全燃焼!!??に終了・・・。

Oliver 先生のポジティブフィードバックにより復活、と言った感じでした。



その後はLee 先生 (Oliver 先生、Taki 先生と並んで“3 大女性カリスマドクター”と勝手に隊長が命名) の小児蘇生の講義&実習を行いました。

短い昼食休憩を挟み、午後からは小児の救急対応のシミュレーションです。

めまぐるしく変化する小児の状態にてんやわんやししながら、なんとかゴールにたどりついていました。

その後、さらに「one night on call」。

過去に 1 日半かけて行ったプログラムを何と一日ですませるという強行日程でしたが、チームワークやコミュニケーションもどんどん上達。最後に立派な蘇生チームに近づいてきました。



その合間に行われた腹腔鏡のトレーニングマシンのコンテストでは、N 先生が12名中 1 位の成績で表彰されました。



終了後はさすがに全員へトへとでしたが、Alamoana shopping(年々巨大化していて、もはや迷路です)にある Island というお店で Ben 先生と Oouchi 先生を交え、交流会を開きました。

徐々にパワーアップしているチーム2014。明日も彼らの成長が楽しみです。

～研修4日目～

いよいよ Sim Tiki 最終日です。

朝からは挿管困難症例に対する様々な気道確保をシミュレーターで学んでから、実際のシナリオを経験しました。



手技そのものはそれほど難しいことはないのに、実際にその手技を選択し、実行するのが皆大変そうでした。それでもピッツバーグ大学の救命センターのアルゴリズムに従い、悩みながらもゴールにたどり着いていました。

ランチタイムの後は、毎年大人気の Crisis Team trainign です。

大学病院でいうと、ハートコールが発令した後の対応を全員で行いました。



全員でこれまでの知識をフルに活かして、‘ワイワイ’というより、‘カオス’状態での蘇生となり、



1回のシナリオ毎に自分たちの動きをビデオで確認し、



最後はコミュニケーションスキルも完璧な素晴らしいチームに仕上がari、お褒めの言葉をいただきました。

クタクタになりながらも、気分を変えるためホテルの足湯で疲れをいやしながらのミーティングを行いました。



明日は米軍病院のカンファレンス出席のため、朝6時過ぎのスタートになります。
全員遅刻しないように祈ってます。

～研修最終日～

早朝から Tripler Army Hospital の内科カンファレンスへ参加しました。

米軍病院らしく、グラウンドラウンドは睡眠障害と戦闘の影響などの話を容赦なしの英語で!!!

皆、朝一で凹んでいました。



その後 Vincent 先生のご案内で病院内を見学し、いろいろな違いを体感しながらアメリカ医療の一部を垣間見てきました。



その後ハワイの DMAT センターへ移動しましたが、記されている住所にタクシーが到着してもセンターがどこにあるかわからず、探しているうちに、気づいたら刑務所。
それでもなんとかたどり着いて、目立たない理由を聞いたら、「災害の時に人々が物資を狙って押し寄せないように、そしてテロリストの標的にならないように」との事。なるほど納得です。
内部を Toby さんに案内いただきましたが、日本とはあまりに違う備蓄に驚きました。
(山下先生(長崎大学病院 救命救急センター)にもお伝えしたいような内容でした。)



帰りに“この木なんの木”に立ち寄り、お約束の写真を A 先生(カメラはプロ並の腕前) produce で撮影しました。



プールサイドで最後のミーティング



いろいろと小事件はありましたが、5日間全力で走り切りました。

12人の研修医に「good job !!!」とお伝えしました。

来年の研修も既にベンと協議中です。

宮本俊之@ワイキキより